

絆 図書館ボランティアだより

第13号

きずな

2012年6月 阪南市立図書館サポーター・ブックファン広報部会発行

目次

自由*空間	「阪南市と神武天皇③」「中国本土の交通事情①」	・・・ P 2
ご存知ですか	「本のリサイクル」	・・・ P 2
私のおすすめ	『恐るべき子供たち』『沈黙(大活字本)』	・・・ P 3
	『だいじょうぶ だいじょうぶ』	・・・ P 3
図書館からのお知らせ		・・・ P 4

大阪樟蔭女子大学図書館と田辺聖子文学館を訪ねて

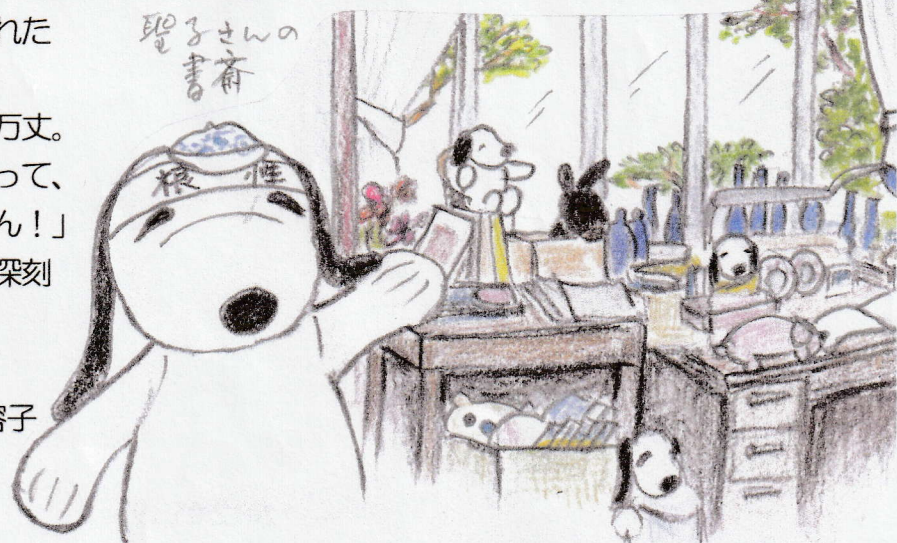
前号に続き今回は、近鉄奈良線の文学散歩ルートにある大阪樟蔭女子大学図書館と田辺聖子文学館を訪れました。長瀬川沿いの正門を入ると大正期の面影を残す建物が続き、新緑の木々が市中の喧噪を隔てて落ち着いた佇まいを感じさせます。

樟蔭女子大学の小阪本館の2階受付で、館内案内をお願いしました。閲覧室の入退館ゲートを通ると、カウンターでは貸出返却手続きや各コーナー(OPAC、雑誌、AV)の利用申込、質問、照会、レファレンス・サービスが行われています。また休憩室、閲覧室、自習室があり、学生の研究をバックアップしています。検索ページ「OPAC」では、他大学の情報も見ることが出来ます。本学関係者の利用を主としますが、学外社会人にも一定の条件下で利用可能とのこと。緑あふれる採光と、広々とした心地よい空間が印象に残りました。

ミス Sumiko

田辺聖子文学館は、図書館と同じ建物の一階にありました。田辺聖子さんの小説は、皆さまご存知のようにタイトルも思わずニマツとしたくなるのがほとんど、中身もサラッと入り易く爽快です。カップえびせんのように“やめられない止まらない”で気がつくつと、つい全部食べて、いや読んでしまったという経験があまりではないでしょうか。この方のお部屋も衣装も夢見る夢子さん。生涯に書かれた本が、又気が遠くなるような数。

実人生も著書に負けず劣らず波乱万丈。この方を見た時、人間には二通りあって、ややこしい大変な人生を「面白いやん！」と笑って生きる人と、平凡な人生を深刻に生きる人がいると思いました。どちらを選ぶのかはその人次第。あなたならどうしますか？ 門脇 容子



今までのお話の続きです。今回は中国本土の交通事情ですが、中国では車は右側通行で右折は信号の制限はありません。もっとも郊外の街では信号そのものが珍しく、警官が見ていなければ赤信号で止まる車の方が珍しいくらいです。道路ではトラック、乗用車、単車、自転車のごっちゃになって走っています。みんな同じ権利で走っているので広い交差点では接触しないのが不思議なくらいの「あうん」の呼吸で進んでいきます。また高速道路であっても自転車、リヤカー、牛、歩行者も歩いていて不思議な錯覚が生まれます。こういう所はおおらかでいいのですが、何と言っても一旦停止の習慣がありませんから、路地から出て来る車は、運転手の視野に何も見えていなければ、突然広い道路に飛び出すのです。私が居た街では有る月に単車が十台売れましたが半年で全員が事故で亡くなったそうです。中国へ行かれる方は、日本の交通常識だけでは道路も渡れませんよ。



自由 * 空間



クロツグミ

前口等

現在、金田正男氏が男神社の左座を担い、ナナツカ参りに関わる寛永年間から綴られている古文書を管理している。その現物を拝見しながら、お話しをお聞かせいただいた。

毎年、二月十一日に男神社の右座と左座が二人ずつ代表を出して各ツカをお参りしているという。これによると、座の四人と三つのツカの合算が、偶然にもナナツカのナナ(七)となる。「ツカ」の数は関係者の数を示しているように映る。しかし、元来、七つのツカがあったからこそ「ナナツカ参り」と呼ばれたはずであり、後世、田畑の開発などによって四つのツカが消滅したと考えるべきではないだろうか。

「ツカ」とは「塚」とも書き、「墓」だと考える人が多い。しかし、「塚」は江戸時代に流行した寺子屋の先生を顕彰するため、教え子が用いた筆を納めた「筆塚」の「塚」と同義だと考える。ところが、その「塚」を「芝」とも記述していた。

次号につづく、『阪南市と神武天皇④』 Ⅱ「塚」と「芝」が同義の理由Ⅱ

中川 義朗

《ご存知ですか》

本のリサイクル



今回はリサイクル関連の除籍印押しと本並べの作業です。図書館で勤めを終えた本や雑誌は職員により除籍されます。それを毎月第3木曜日に除籍印を本の3ヶ所に押ししていきます。最近シャチハタの印になり作業が軽くスムーズになりました。

さまざまなジャンルの本の大きさや重さも驚きですが、初めて知る本も多く興味がつきません。除籍本は、多い時にはコンテナに13~14個あり、時間内に押し切れなかったりもしますが、リサイクル当日迄に残りの印押しとリサイクル会場に本並べの作業をして、やっと市民の皆様提供となります。尚、当日は受付や会場内の本の整理、受領書記入のお手伝いもしています。

黒田 萬知子



キリシタン禁制の江戸初期、使命に燃えた若いポルトガルの司祭が密かに長崎の漁村に上陸します。悲惨な状況でもなお、信仰を続ける信徒たちに司祭は感銘を受け、信徒たちも若い司祭をあがめます。役人に捕らえられ投獄された司祭。そこでは棄教を誓った信徒までもが酷い目にあっていました。司祭自身が棄教するまで、信徒たちへの責苦は続くのです。司祭は激しく苦悩します。人々のために死のうとして日本に來たのに、自分のために日本人信徒が死んでいく。このような状況を見て、神はなぜ沈黙を続けるのか……。

重いテーマの歴史小説でありながら、難しく考える暇もなくどんどんストーリーに引きこまれていきます。それでいて読後は、人間の弱さ、自分の弱さについて深く考えました。大活字本は大型スクリーンのような迫力、文庫とは違う味わいがありました。読書中の姿勢も良くなるような気がします。

小川 真由

私のおすすめ

皆さんのお好きな本のジャンルは何でしょうか？私はSFも好きですし推理小説も好きです。今日ご紹介するのは仏文学の『恐るべき子供たち』です。作者のジャン・コクトーはフランスの詩人です。この物語は恋愛悲劇を題材にしています。主人公のポールは姉エリザベートとの同居生活を送る少年で、或る雪の降る日に雪玉をぶつけられて倒れてしまいます。友人に運ばれて家に帰るポールを待っていたのは不機嫌なエリザベートでした。

この小説の主題は愛なのですが、一つにはポールのダルジュロスへの同性愛があります。病に伏せるポールは俗語的に言うとプー太郎で生活安定力がありません。そこでエリザベートが一念発起し仕事を持つと企てます。この物語は悲劇です。愛の弱点はこわれものである事です。愛を失うと愛に生きる人は生きる意味を失ってしまうのです。この小説のラストシーンはポールの死とエリザベートのピストル自殺で幕を閉じます。私はこの小説に青春の美しさとおそろい苦さを感じました。

高橋 勇

《児童書》

『だいじょうぶ だいじょうぶ』

いとうひろし作・絵 講談社 E

小学校で子どもたちに読んだのは、もう10年以上前のことになります。その時は「君たちのまわりにはこんなにも楽しいことがあふれているよ。」「だいじょうぶ だいじょうぶと見守ってくれるおとなが、君のそばにもきっといてくれるよ。」というメッセージを子どもたちに伝えたくて読んだのですが、今では読んでいるうちに、自分の中にある不安な気持ちはどこかへ行ってしまいます。「だいじょうぶ だいじょうぶ」は魔法の言葉です。笑顔で子どもたちを「だいじょうぶ だいじょうぶ」と見守ってあげられる人になりたいと思うきっかけになりました。

おとなの方にもお薦めの本です。きっと癒されますよ。

小菅 美知子

図書館フレンズ活動報告

昨年度の集計ができました。配架に延べ1358名、書庫入れ作業に469名、修理・装備・清拭に396名、館内装飾に37名、リサイクル関連に138名、広報関連に42名ものご参加をいただき、年間の延べ人数が2440名にもなりました。登録者数は75名ですので、お1人平均32.5日来てくださったことになります。

図書館フレンズの皆様がボランティアで多岐にわたってサポートしてくださっているおかげで、阪南市立図書館は円滑に回っております。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、新規に図書館フレンズでボランティアしてみようかな、という方はどうぞカウンターにお申し出ください。随時ご登録いただけます。

図書館フレンズ 2011年度活動日数集計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度	延べ人数	登録者数
朝の配架	128名	113名	124名	101名	107名	101名	105名	87名	92名	86名	76名	96名	1216名	2003年度	155名	20名
月末整理日	14名	13名	12名	10名	10名	12名	9名	9名	0名	19名	13名	21名	142名	2004年度	682名	28名
配架人数計	142名	126名	136名	111名	117名	113名	114名	96名	92名	105名	89名	117名	1358名	2005年度	652名	33名
書庫入れ作業	48名	39名	51名	45名	30名	36名	37名	40名	43名	33名	23名	44名	469名	2006年度	1000名	36名
修理・装備人数計	50名	31名	31名	34名	34名	27名	34名	32名	26名	31名	27名	39名	396名	2007年度	1369名	48名
修理冊数	205冊	317冊	147冊	165冊	268冊	221冊	252冊	192冊	144冊	524冊	219冊	193冊	2847冊	2008年度	1540名	61名
本の清拭冊数	29冊	54冊	88冊	482冊	228冊	139冊	215冊	166冊	392冊	21冊	0冊	516冊	2330冊	2009年度	2444名	75名
装備冊数	183冊	45冊	94冊	75冊	102冊	51冊	89冊	136冊	66冊	60冊	102冊	125冊	1128冊	2010年度	2541名	75名
館内装飾人数計	3名	4名	0名	2名	2名	8名	2名	0名	4名	4名	4名	4名	37名	2011年度	2440名	75名
リサイクル人数計	3名	3名	37名	3名	3名	3名	30名	1名	4名	13名	36名	2名	138名			
広報人数計	0名	14名	0名	0名	0名	13名	0名	0名	0名	0名	15名	0名	42名			
総計	246名	217名	255名	195名	186名	200名	217名	169名	169名	186名	194名	206名	2440名			

2011年度 総計(延べ人数) 2440名



本のリサイクル

今年度も3回あります

※図書館でのつとめを終えた本をお譲りします。みなさまの本棚で第二の人生を・・・

1回目：6月24日(日) 午前9時30分～午後2時

2回目：11月4日(日) 午前9時30分～午後2時

3回目：平成25年2月2日(土) 詳細未定・雑誌も出ます

ところ サラダホール2階 視聴覚室

冊数 各回10冊まで

入場方法 **図書貸出券**をご提示下さい。忘れた場合は入場できません。

受け取られる方には、受領書を書いていただきますので、**ボールペン**と**本を入れる袋**をご持参下さい。

